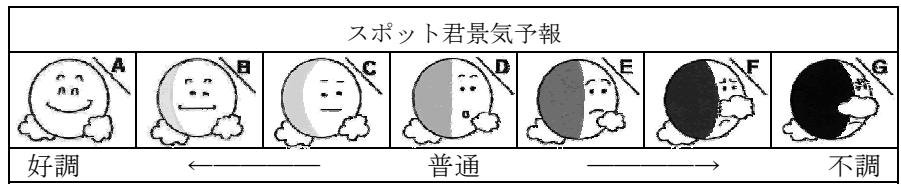


2. 目黒区内中小企業の景況（平成27年1～3月期）

（1）今期の特徴点



製造業



製造業の主要指標をみると、業況は△15.7 前期比0.9 ポイント増と前期並みだが改善傾向にある。売上額は△11.1 で0.5 ポイント減、受注残は△9.9 で0.8 ポイント減となり変化はない。収益は△12.2 で3.1 ポイント増とやや厳しさが和らいた。来期の見通しについては、収益・売上額・受注残のいずれも改善すると予想されており、業況は持ち直す見込み。

価格動向については、販売価格は△6.9 で0.6 ポイント増と下落傾向が一服した一方、原材料価格は24.3 で5.2 ポイント減と幾分上昇幅が縮小した。在庫は0.8 ポイント減の4.1 と前期並みだが過剰感が改善された。来期の見通しについては、原材料価格は大きく上昇幅が縮小、販売価格は前期並みで、在庫はやや調整が進む見込み。

資金繰りは△16.5 で1.7 ポイント減と前期並みとなっている。借入難易度は△14.2 でやや苦しさが強まり、借入をした企業は16.0%で1.5 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は6.2%で前期と同水準となった。来期の見通しについては、資金繰りは△15.2 と前期並みとなり、借入をする企業は16.0%と同じく前期並みとなった。設備投資を実施する企業は6.3%で前期並みの見込み。

経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」で45.5%となった。2位は「同業者間の競争の激化」で33.3%、3位は「原材料高」で21.2%となった。重点経営施策では、1位は「販路を広げる」で56.6%となった。2位は「経費を削減する」で53.5%、3位は「新製品・技術を開発する」で13.1%となった。

卸売業



卸売業の主要指標をみると、業況は4.3 ポイント減の△7.5 とやや悪化が強まった。売上額は9.8 ポイント増の4.6 となり、大幅に改善した。収益は△4.7 で7.7 ポイント増となった。来期の見通しについては、収益がやや悪化し、売上額は大幅に落ち込み、水面下となる。業況はやや改善する見込み。

価格動向については、販売価格は6.5で1.4 ポイント増と前期並みで、仕入価格は1.8 ポイント減の19.7 と前期並みとなっている。在庫についても0.8 ポイント増の7.3 と前期同様となっている。来期の見通しについては、販売価格は大きく上昇から下降へと転じており、仕入価格は前期に比べてやや下降幅を拡大している。在庫はやや減少する見込み。

資金繰りは△0.2 で6.6 ポイント増と大きく厳しさが和らいた。借入難易度も0.1 ポイント増の4.4 と前期並みとなり、借入をした企業は20.7%で2.8 ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は6.9%と3.3 ポイント増加した。来期の見通しについては、資金繰りは△7.6 と大きく厳しさが強まる。借入をする企業は13.8%とかなり縮小する見込み。設備投資をする企業については7.4%と前期並の水準で推移する見込み。経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」と「同業者間の競争の激化」が44.8%で並んだ。2位は「利幅の縮小」で27.6%となった。3位は「流通経路の変化による競争の激化」で13.8%となった。重点経営施策は、1位は「販路を広げる」と「経費を節減する」が55.2%で並んだ。2位は「品揃えを充実する」で24.1%、3位は「新しい事業を始める」で17.2%となった。

小売業

<<今期>>



小売業の主要指標をみると、今期の業況は△14.0で5.0ポイント増とわずかに上向いた。売上額は△17.3で2.6ポイント減とやや悪化し、収益は△19.1で1.2ポイント増と前期並みの減少が続いた。来期の見通しについては、売上額、収益ともに大きく改善するものの、業況はやや低迷する見込み。

価格動向については、販売価格は1.4ポイント増の6.1と前期同様の上昇で、仕入価格は14.9で3.5ポイント減とわずかに上昇が弱まった。在庫は5.1ポイント増の3.6と、やや在庫過剰に転じた。来期の見通しについては、販売価格は△1.3と大幅に上昇から下降に転じ、仕入価格は4.5とかなり上昇が弱まり、在庫は3.1と前期同様の過剰感が続く見込み。

資金繰りは△19.6で13.1ポイント増とかなり改善した。借入難易度は2.8ポイント減の△5.4とやや窮屈感が強まり、借入をした企業は1.9%で5.8ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資をした企業は6.0%で前期と変わりない。来期の見通しについては、資金繰りは△21.0と前期同様の厳しさが続くが、借入をする企業は5.8%とやや増加し、設備投資をする企業は8.0%とわずかに増加する見込み。

経営上の問題点については、1位は「売上の停滞・減少」で53.8%となった。次いで2位は「同業者間の競争の激化」で42.3%、3位は「大型店との競争の激化」で30.8%と続いた。

重点経営施策では、1位は「経費を節減する」で44.2%となった。次いで2位は「品揃えを改善する」で40.4%、3位は「宣伝・広告を強化する」で32.7%となり、前期から1位と2位が入れ替わった。

サービス業

<<今期>>



サービス業の主要指標をみると、今期の業況は、△21.1で19.9ポイント減と非常に厳しさを増した。売上額は11.3ポイント減の△5.6と水面下に落ち込み、収益は6.0ポイント減の△7.1と大幅に低迷した。来期の見通しについては、売上額がわずかに改善し、収益及び業況は大幅に持ち直す見込み。

価格動向については、料金価格は2.7で△2.2ポイントとなり、やや上昇が弱まった。材料価格動向については、料金価格は0.4ポイント増の21.6となり、前期並みの上昇が続いた。来期の見通しについては、料金価格は△2.0でわずかに下降に転じて厳しさを強め、材料価格は11.6ポイント減の10.0と大幅に仕入価格の上昇が弱まる見込み。

資金繰りは、△15.4で4.8ポイント減とやや苦しさが強まった。借入難易度は4.2ポイント減の△4.2と幾分厳しさが増した。借入をした企業は16.9%で1.6ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資をした企業は10.5%で4.0ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りはやや厳しさが和らぐものの、借入をする企業はかなり減少、設備投資をする企業はほぼ前期並みの見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で45.8%、2位は「売上の停滞・減少」で40.7%、重点経営施策では、1位は「経費を節減する」で50.8%、2位は「販路を広げる」で42.4%、3位は「宣伝・広告を強化する」で27.1%となった。

建設業



建設業の主要指標をみると、業況は 1.6 で 9.5 ポイント減とかなり悪化した。売上額は 5.3 で 8.5 ポイント減と増加傾向が大幅に後退し、収益は 1.9 で 6.2 ポイント減となりかなり増加幅が縮小した。施工高は 11.8 で 8.0 ポイント減と大きく悪化し、受注残は 5.9 で 12.1 ポイント減と大幅に縮小した。来期の見通しについては、売上額と収益は大幅に改善、受注残と施工高はいずれもわずかに改善することから、業況は大きく改善する見込み。

価格動向については、請負価格は 6.8 ポイント減の 7.2 と大きく上昇幅が縮小し、材料価格は 8.9 ポイント減の 42.1 と大きく上昇幅が弱まった。在庫については△1.9 で 0.3 ポイント減と前期並の適正水準が続いた。来期の見通しについては、請負価格はやや上昇傾向を強め、材料価格は大きく上昇幅が縮小する見込み。

資金繰りは、△10.8 で 9.1 ポイント減と大幅に厳しさが増した。借入難易度は 4.0 ポイント減の 8.1 とわずかに容易さが縮小し、借入をした企業は 4.3 ポイント減の 19.5% でやや減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 2.6% で 2.2 ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△8.9 と今期同様の苦しさとなり、借入をする企業は 12.2% と大きく減少するとみられる。設備投資を実施する企業はやや増加し 5.1% となる見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争激化」で 42.9% となった。次いで 2 位は「人手不足」と「材料価格の上昇」が同率の 33.3% で並んだ。3 位は「売上の停滞・減少」と「利幅の縮小」が同率の 28.6% で並んだ。以下、4 位は「大企業との競争の激化」、「下請の確保難」で 9.5% と続いた。

重点経営施策は、1 位は「販路を広げる」と「経費を節減する」が同率の 52.4% で並んだ。2 位は「人材を確保する」が 35.7%、3 位は「技術力を高める」で 26.2% だった。4 位は「情報力を強化する」で 11.9% と続いた。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測

